

中外製薬株式会社 横浜研究拠点プロジェクト

準備書に関する説明会の開催状況、
質疑、意見の概要及び事業者の見解

平成 30 年 9 月 27 日

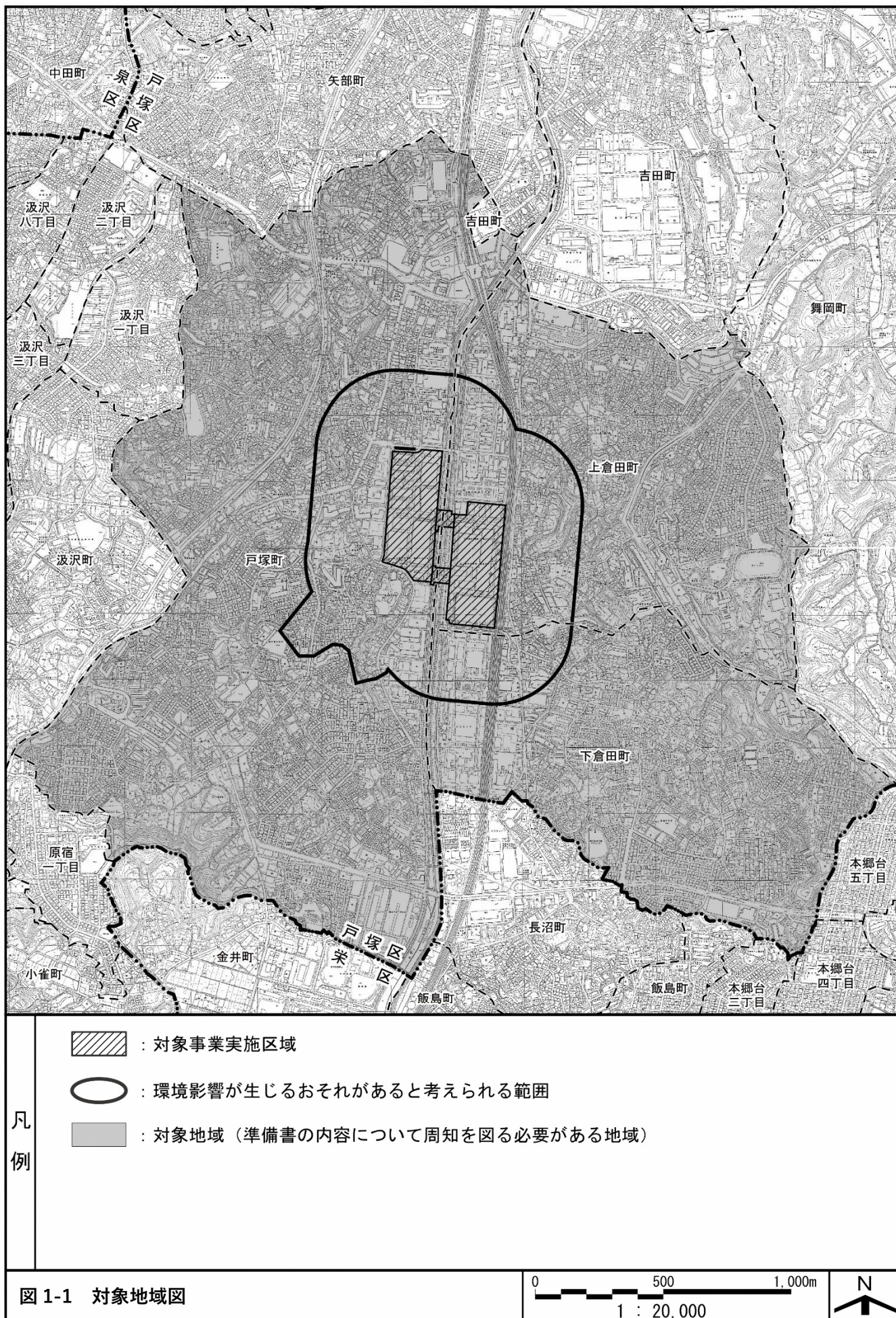
中外製薬株式会社

1 準備書に関する説明会の開催及び準備書の概要に関する周知結果

準備書に関する説明会の開催及び準備書の概要に関する周知は、平成 30 年 8 月 24 日（金）に新聞へのチラシ折込みと、平成 30 年 8 月 24 日（金）から平成 30 年 8 月 29 日（水）までに各住戸へのポスティングにより、「中外製薬株式会社 横浜研究拠点プロジェクト 環境影響評価準備書の概要及び説明会のお知らせ」（別添資料）を、表 1-1 及び図 1-1 に示す対象地域に配布しました。

表 1-1 準備書に関する説明会開催等のお知らせの配布部数

配布対象区町等		配布部数	
戸塚区	＜新聞へのチラシ折込み＞ 戸塚町、上倉田町、下倉田町	40,700 部	＜折込み新聞名及び折込み部数＞ 読 売： 16,450部 朝 日： 13,700部 日 経： 4,750部 産 経： 950部 毎 日： 1,950部 神奈川： 2,350部 東 京： 550部 合 計： 40,700部
	＜各住戸へのポスティング＞ 区域境界から約 300m の範囲	5,883 部	—
合 計		46,583 部	—



2 準備書に関する説明会の開催状況、質疑、意見の概要及び事業者の見解

2.1 準備書に関する説明会の開催状況

準備書に関する説明会は、表 2.1-1 に示す日時で計 2 回開催し、環境影響評価準備書の概要を参加者に説明しました。

表 2.1-1 準備書に関する説明会の開催結果

回	開催日時	会 場	参加人数
第 1 回	平成 30 年 9 月 7 日(金) 19:00～21:05	戸塚公会堂 講堂 (横浜市戸塚区戸塚町 127 戸塚センター 3 階)	99 名
第 2 回	平成 30 年 9 月 8 日(土) 14:00～16:00		124 名
合 計			223 名

2.2 準備書に関する説明会における質疑、意見の概要及び事業者の見解

各開催日の質疑、意見の概要及び事業者の見解は、表 2.2-1～表 2.2-2 に示すとおりです。

なお、整理にあたっては、発言順ではなく、項目別としています。

表 2.2-1(1) 準備書に関する説明会（第 1 回）における質疑、意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の見解
事業計画 (全般)	なぜ住宅地の中に研究所を建設しなければならないのでしょうか。	戸塚区マスタープランにおいて、柏尾川周辺の該当エリアは、生産・研究開発機能を維持しつつ、さらに高度化を図る地区とされています。また、横浜市もライフサイエンスに力を入れております。このような行政の考え方も踏まえて、弊社の研究拠点の建設地として選定させて頂きました。また、この場所は、都心や空港にも短時間でアクセスできる点も選定理由の一つです。
事業計画 (建物配置・高さ)	西側敷地に建設予定の研究棟と敷地西側のマンションとの距離は 50m 以上離すとのことですが、実際に 50m 離れた位置がどの辺りになるのか、速やかに線を引いて示して頂くことはできますか。また、実際に建設工事を行う際には、距離を測定して確認することはできますか。 建物を 2 階分くらい低くして欲しい。 西側敷地の研究棟が敷地西側のマンションと正対しているため、建物の向きを 90 度ずらして欲しい。	現在は現土地所有者の所有地であるため、50m 離れた位置が分かるような対応につきましては、現土地所有者と相談して、可能であれば何らか検討致します。また、建設工事を行う際には、住民の皆様にご確認いただけるように対応いたします。 研究棟の高さにつきましては、新薬の研究開発を進めるために現計画通り 31m の高さが必要であると考えておりますが、西側マンションに相対する前面部の高さを 26m に下げるなど、建物形状を工夫しております。 新薬の研究開発を進める上では、各研究棟の連携が重要となります。この点を考慮して現在の建物形状や配置を計画しているため、申し訳ございませんが建物の向きを変更するご要望にお応えすることはできません。
事業計画 (建物配置・形状)	西側敷地川沿い側の建物の形状や配置の根拠を教えてください。棟間に一部緑地がありますが、緑地にする必要はあるのでしょうか。	西側敷地川沿い側の建物は、研究棟、研究者が入る居室棟、動物棟、エネルギー棟であり、研究棟(研究エリア：W-07)－居室棟(事務エリア：W-08)間の緑地は、将来、研究者が増えた場合に増築できるように空けています。また、新薬の研究開発を進める上では、連携しながら一体となって進めることが重要であるため、現在の配置としております。
工事計画	現土地所有者が実施している現在の工事で土埃がたっており、その継続が危惧されます。東側敷地の将来用地は、着工までの間、土が剥き出しになるのではないかと思います。土埃への対策を教えてください。	工事期間中は、土埃の発生防止に向けて、工事時の散水実施やシートの活用、グラウンドガードを用いて土を固める等の対策を講じていきます。
温室効果ガス	省エネ対策を図ることで二酸化炭素排出量を 30%削減するとのことですが、それでも 70%は排出されるということになります。カーボンオフセットの対応とか何かは、どうなっているのか教えてください。	二酸化炭素の排出量につきましては、できるだけ削減していきたいと考えています。具体策としては、コージェネレーションシステムの採用や、各種省エネ設備の導入などを図っていきます。

表 2.2-1(2) 準備書に関する説明会（第1回）における質疑、意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の見解
安全	研究所でどのような有害物質を取り扱うのか教えて下さい。	本研究所においては、化学薬品、遺伝子組換え生物や微生物、実験動物、放射性同位体を取り扱い、実験を行います。それぞれ適正に管理してまいります。化学薬品や放射性同位体に関して、具体的に扱うだいたいのものについては、準備書をご参照いただければと思います。
	研究所の稼働時に、実験後の実験動物や薬品はどのように処理されるのか教えて下さい。 処理を委託する処理会社は開示いただけるのでしょうか。また、処理会社の妥当性はどのように確認されるのでしょうか。	実験後の実験動物や薬品は、法的な許可を有する廃棄物処理会社に委託し処理いたします。また、廃棄物に関しても同様です。 選定につきましては、弊社他事業所での委託実績なども含めて検討してまいります。企業名の開示につきましては、処理会社との契約内容も踏まえて判断することになります。また、処理会社の妥当性に関しましては、弊社の従業員が定期的に訪問し、監査を行い確認します。
	実験動物の排泄物は、処理会社の回収時まで溜めておくのでしょうか。 実験動物が外部に逃げ出して人と接触した場合、人体にどのような影響があるのか教えて下さい。 RI（放射性同位体）が外部に漏れた場合に人体への影響はありますか。	実験動物の排泄物は、生物処理を有する排水処理施設にて、定められた水質基準以下に処理した上で、下水道に流します。 マウス・ラット・サル・イヌ等を取り扱う計画ですが、建物の外に出た場合にどのような影響があるかは状況により異なりますので説明は難しいです。 弊社としては、実験動物がエリア外に出ることが無いように管理を徹底して参ります。安全対策として、動物を取り扱うエリアから外に出るまでの間には最低でも 3 枚以上の扉を設置し、且つ隣接する扉は同時には開かない仕様とします。また、停電時でも扉は閉じたままとなります。万が一建物外に出ることがあった場合は、直ちに管理獣医師らが実験動物の捕獲に努め、関係当局に届け出ると共に、住民の皆様にも情報を開示します。 RI は法令に準じて、取り扱う管理区域及び取扱者の限定、セキュリティ管理の徹底などにより、厳格に管理します。また、RI の排気に関しては、全て 2 重化しており、停電時でも非常用発電機から電気が供給される仕様とするなど、安全対策を徹底します。
	例えばエボラ出血熱のような病原菌が万が一漏れた場合にどうなるのか。住民に対する危険についてのシミュレーションをやって頂きたい。 また、研究所で行われている研究内容を公開していただけますか。	本研究所では、疾病の治療法や予防法が確立している病原性の低いもののみ取り扱います。ご質問いただいたような病原性の高いものは扱いません。シミュレーションを行う事は難しく、環境アセスメントでは過去の類似施設の事故事例を踏まえ、安全対策を講じてまいります。 具体的な研究内容は、秘密事項もあり公開できません。
	将来的に設備を変えて、病原性の高い病原菌を取り扱う可能性はありますか。	本研究所では、バイオセーフティレベル 1 および 2 まで（レベル 1 から 4 までの区分があり数値が低い方が安全性が高い）の病原性の低いもののみを扱う計画です。 現状ではこの計画を変更する考えはありません。設備を改修すれば取り扱えることができることにはなりますが、そのような場合においては、近隣の皆様にご説明します。

表 2.2-1(3) 準備書に関する説明会（第 1 回）における質疑、意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の見解
浸水関連	旭町通りから建設予定地まで道路がなだらかに下がっています。横浜市が整備中の都市計画道路により道路面が 60cm 程度高くなるとの話がありましたが、自然の水の流れが止められることとなります。整備中の都市計画道路辺りは何年かに 1 度は浸水する土地です。水が自然に流れるように都市計画道路の下に土管を埋めて、中外製薬の敷地を通して南側の提供公園へ流すような仕掛けは出来ないのでしょうか。 また、現在の計画を止めて頂くことはできますか。	横浜市が整備中の都市計画道路の下に、弊社が土管を通すことは困難です。頂戴しましたご意見につきましては、横浜市にお伝えいたします。 また、工事に関しましては、現在計画している内容で実施させて頂きたいと考えております。
	内水氾濫シミュレーションの条件が平成 16 年 10 月の台風 22 号の実績豪雨（1 時間に 76.5mm の降雨）とのことですが、昨今の豪雨や台風の巨大化を考えると、この前提はもう間違っているのではないのでしょうか。	今回の内水氾濫シミュレーションは、横浜市のハザードマップと、シミュレーション結果を比較して弊社の盛土の影響を確認することを目的に実施しています。そのため、横浜市のハザードマップの作成条件に合わせて、1 時間に 76.5mm の降雨量（平成 16 年 10 月の台風 22 号の実績豪雨。30 年に 1 回の確率で降ると想定される降雨量）データを用いています。
その他	今回示された環境影響評価の値は、現土地所有者の施設があった時と比較してどのくらい良くなっているのでしょうか、悪くなっているのでしょうか。	現土地所有者の施設があった時のデータを有していないため、比較は難しいと考えています。

表 2.2-2(1) 準備書に関する説明会（第2回）における質疑、意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の見解
事業計画 (建物高さ)	建物の高さが 31m とありますが、盛土の上から 31m であり実質 33m になるとのことで間違いないでしょうか。また、示されたイメージ図は、盛土が反映されたイメージ図となっているのでしょうか。	建物の高さは、盛土の上から 31m となります。また、お示しいたしましたイメージ図は、盛土が反映されたものとなっております。
事業計画 (緑道)	西側敷地西側に設ける緑道や提供公園はかなり広いものとなりますが、この管理やメンテナンスはどのように行われるのでしょうか。	提供公園は、弊社が寄付し横浜市の所有となるため、管理は横浜市が行うことになります。また、緑道は、弊社が管理を行います。住民の皆様にご活用いただけるように日中は緑道を開放し、夜はセキュリティ及び安全を考慮し閉鎖する予定です。
事業計画 (供用開始時期)	西側敷地西側は、道路拡幅工事や緑道工事が予定されていますが、いつから住民が利用可能となりますか。	弊社としましては、住民の皆様にも大きく関わる道路拡幅は第一に対応していく考えです。詳細な時期は行政との相談になりますが、可能であれば 2019 年中にはご使用頂けるように対応していきたいと考えております。 提供公園は 2021 年初旬には工事を完了させ、横浜市へ寄付し使用して頂きたいと考えております。 一方、緑道につきましては、敷地全体の工事計画との関係もあり、2022 年夏頃に完成し使用開始する予定としております。
事業計画 (河川横断部)	東西の敷地を結ぶ河川横断部はどのようなものになるのでしょうか。	施設配置図の赤点線部は、環境アセスメントにかかる区域を示しております。この区域内に、現状で現土地所有者が設置している、ひさご橋と動力橋があります。弊社の計画では、動力橋は撤去し、ひさご橋は新しい橋に架け替える予定です。
事業計画 (桜の木)	工事に伴い工事敷地内河川側の桜の木を何本か抜いていると思いますが、工事完了後に桜は戻らないのでしょうか。	工事の都合上、止むを得ず伐採せざるを得ない桜もございますが、柏尾川沿いの敷地内に新たな桜を植え、桜並木ができるように検討しております。
事業計画 (将来用地)	将来的に東側敷地に建物を建設する際には、住民に対して事前に説明があるのか確認させて下さい。	東側敷地の将来用地に新たな建物の建設を計画する場合は、事前に住民の皆様へご説明させていただきます。
騒音・振動	西側敷地西側のマンション近辺が予測地点に含まれていないですが、騒音や振動の工事中および稼働時の予測地点は合理的なのでしょうか。 西側敷地西側のマンション近辺の騒音や振動のシミュレーションを行いホームページに結果を掲載するなど、何か自発的な取り組みはできないのでしょうか。	道路交通騒音・振動の予測地点設定の考え方としては、①ルート上に病院や学校がある場所を重点として設定すること、②地点 3 の付近は都市計画法上の用途地域が第 2 種中高層住居専用地域であり、他の工業地域より厳しい騒音の環境基準値とされていること、などを考慮し設定しています。 追加でのシミュレーションにつきましては、検討させていただきます。 工事中の騒音および振動に関しましては、複数箇所に計測器を設置し、計測値は住民の皆様が確認できるようにいたします。
地域社会	研究所稼働時の歩行ルートに関して、研究所で働く方の歩行が増えたとしても自由歩行が可能となっておりますが、戸塚駅のホームや改札の混雑は予測しているのでしょうか。 また、何名での予測をしているのでしょうか。	環境アセスメントにおいては、歩道における歩行者の予測を実施しておりますが、戸塚駅のホーム、改札での予測は行っておりません。 本研究所の出入人数について、駅利用者は想定される最大ピーク時で一時間あたり 797 名として予測しております。

表 2.2-2(2) 準備書に関する説明会（第2回）における質疑、意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の見解
安全	安全管理について、平時および大地震発生時の化学物質の飛散に対する対策について説明して下さい。	安全管理については、大地震時においても平時の管理状態を保つように計画しています。主要な建物は免震構造とするとともに、主要な設備は非常用電源を設けております。具体的には、以下の安全管理を行い、皆様にご心配をおかけしないように管理していきます。また、大地震発生などの災害時にはすぐに実験を止め、安全対策に努めます。 <実験系排水> 実験後の廃液は専用タンクで回収し、法的な許可を有する廃棄物処理会社に委託し処理いたします。 実験室からの排水は、生物処理を有する排水処理施設にて、定められた水質基準以下に処理した上で、下水道に流します。 排水処理前の配管は地中埋設を行わず露出配管とすることで、状態を確認できるようにします。 RI 施設の排水は専用の処理施設を設置します。 <実験系排気> バイオ系の実験で空気中に飛散する危険性がある実験を行う場合は、高性能 (HEPA) フィルターを有した安全キャビネットの中で実施し、実験室内に安全な空気を排気します。化学薬品や実験動物など臭気・粉塵は、高性能 (HEPA) フィルターや、臭気を除去するスクラバー・脱臭装置などを通して排気します。RI 実験室の排気は RI 専用のフィルターを2系統設置し、バックアップを考慮します。 <安全・セキュリティ> 薬品は、許可を得た者のみが取り出しできるように管理します。法的に管理が必要となる薬品に関しては、セキュリティカードで出入りする管理室の中で更に施錠管理をしたロッカーで収納し、使用量に関しても記録します。 実験動物の管理に関しては、教育を受けた者のみが取り扱いを行い、入荷の際および飼育中も数を管理します。また、飼育室から建物の外部までは3枚以上の扉を設置し、近接する扉は同時に開放しないようにし、実験動物が外に出ないように管理します。微生物・遺伝子組換えに関しては、感染症法で許可や届出が必要な病原体は本研究所では取り扱いしません。また、取り扱うエリアについては、教育訓練を受け許可を得た者しか入れないように管理をします。RI (放射性同位体) に関しては、放射線障害防止法に基づき使用する範囲を管理区域に設定し、セキュリティ管理を行います。また、管理区域には、教育訓練を受け許可を得た者のみが入室し実験を行うように管理します。RI 物質についても、使用量を管理すると同時に、RI 貯蔵室は施錠管理し出入り口を監視します。 <感染症法での分類> 感染症法で許可や届出が必要な一～四種の病原体※1は、本研究所では取り扱いを行いません。遺伝子組換え生物実験の分類はクラス1～4※2までであり、本研究所で取扱うのはクラス1および2となります。クラス3および4を取り扱う計画はありません。

※1：準備書 p.6.9-21, 表 6.9-7 参照。

※2：準備書 p.6.9-21, 表 6.9-6 参照。

表 2.2-2(3) 準備書に関する説明会（第2回）における質疑、意見の概要及び事業者の見解

項 目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の見解
安全	RI の排水配管は、地中埋設を行わず露出配管とすることで状態を確認するとのことですが、被災時においても常に管理する要員が確保されるのでしょうか。	災害発生時も人が残って確認し、安全管理いたします。
事後調査	予測した項目の中で事後調査項目に含まれていない項目もありますが、この理由を教えてください。	事後調査項目は、特に影響度が高いと思われる項目に重点を置くなどして、選定しました。
浸水関連	内水氾濫シミュレーションの条件を1時間に76.5mmの降雨としている理由を伺いたい。24時間で300mmの降雨量とする方が条件としては厳しいと思う。	今回の内水氾濫シミュレーションは、横浜市のハザードマップと、シミュレーション結果を比較して弊社の盛土の影響を確認することを目的に実施しています。そのため、横浜市のハザードマップの作成条件に合わせて、1時間に76.5mmの降雨量（平成16年10月の台風22号の実績豪雨。30年に1回の確率で降ると想定される降雨量）データを用いています。
	内水氾濫シミュレーションは、中外製薬が行う盛土の影響評価となっています。しかしながら住民の心配は、戸塚駅から建設予定地に向かって下っていることで流れる水が、都市計画道路の整備により道路面が約60cm上がることで流れなくなってしまうことです。都市計画道路の下に土管を埋設するなどの対策は横浜市に要望することかと思いますが、中外製薬からも横浜市に問題提起して欲しい。	横浜市が整備中の都市計画道路の下に、弊社が土管を通すことは困難です。頂戴しましたご意見につきましては、横浜市にお伝えいたします。
	河川氾濫シミュレーションの結果は3.7cmの水位上昇とのことであったが、水位上昇分をカバーできるように雨水流出抑制槽の容量を増やすことは出来ないのでしょうか。	3.7cmの水位上昇という結果は、シミュレーションエリアを区切ってプール状態とした上での算出結果となります。シミュレーションを実施した専門会社様からは、「現実的には、河川から流出した水は、標高が低い下流方向に広がるため、盛土の影響は比較結果より小さくなる可能性がある」とのコメントを頂いております。また、雨水流出抑制槽は、東西両地区毎に約6,000m ³ の容量を確保しております。
	河川氾濫シミュレーションの設定条件は、盛土の影響が少なくなる条件と考えられるのではないかと。例えば、浸水の深さが1mで、盛土面積と周辺の浸水面積が同じであると仮定した場合、盛土の影響により水の深さは2mになると考えられる。柏尾川の西側だけが氾濫した場合を想定した条件で、シミュレーションを実施して欲しい。	今回の河川氾濫シミュレーションは、第三者である専門会社様に依頼し、実施頂いております。その結果、準備書における環境情報の調査区域をプール状態とした条件での盛土による水位上昇は3.7cmとなっております。頂戴しましたご意見は行政、審査会に報告させていただきます。
その他（説明会）	工事実施前には工事に関する説明会を開催するとのことですが、計画内容に関する説明会は今回が最後となるのでしょうか。また、今回が最後との考えであれば、追加での実施を要望します。	横浜市環境影響評価条例に基づく説明会としては、今回が最後と考えております。計画内容に関する説明会の追加実施のご要望につきましては、ご意見としてお伺いします。

